

IUHW 28号

The gazette of International University of Health and Welfare



御亭山から見た秋の国際医療福祉大学

特集

国際ボランティア報告

・・・ ベトナム・アメリカ・中国・オーストラリア

国際医療福祉総合研究所

・・・ 総研探訪
中嶋所長に伺う 他



発
編
ホ

行：学校法人国際医療福祉大学

集：広報委員会

ホームページアドレス

TEL 0287-24-3000 内線8116

<http://www.iuhw.ac.jp>

おしらせ**大学来訪者（99 年度前期）**

4/12 インドネシア公立病院管理者
4/19 JICAベトナムバクマイ病院プロジェクト研修員
4/21 中国リハビリテーションセンター研究員
5/11 神奈川県衛生部
5/18 東邦薬品薬剤師
5/25 栃木県立今市高等学校教員
5/28 栃木県立日光高等学校教員
5/28 福島県須賀川テクニカルガーデン整備事業推進会議
6/2 JICAケニアプロジェクト担当者
6/9 栃木県オピニオンリーダー研修修了生
6/9 茨城県立八千代高等学校教員・生徒
6/15 栃木県立宇都宮商業高等学校教員・PTA
6/15 大田原市立若草中学校生徒
7/6 栃木市町村消費者団体連絡協議会
7/7 オーストラリアパララットヘルスサービス
7/8 関東学園大学付属高等学校教員
7/8 長野県岡谷市議会総務委員会
7/15 栃木県氏家町長
7/16 栃木県県民バス
8/2 埼玉県立松山女子高等学校教員・PTA
8/30 茨城県立大洗高等学校教員・PTA
9/20 栃木県高等学校教育研究会商業部会
9/25 日本労働組合連合会栃木連合会青年委員会

第 4 回同窓会役員会報告

去る 9 月 18 日、第 4 回同窓会役員会が開かれました。

今回は、10 月 23 日の「風花祭」と時を同じくして開かれます第 1 回同窓会や、今後の活動について 6 時間に亘って話し合いました。今後の活動計画として、11 月中の名簿発行、12 月の同窓会設立記念パーティー、1 月中の会報発行等を予定しております。本会も徐々に本格的な活動に入って参りました。まだ入会していない卒業生は、是非入会し、本会の活動に対するご協力をお願いいたします。

学生課**第 4 回風花祭開催について**

来る 23（土）・24（日）の両日、第 4 回風花祭が行われます。

23 日の教育後援会主催の講演会は、放射線・情報科学科教授、山崎統四郎先生の「途上国援助の実際、ウィーン（IAEA）での仕事とナイロビ（JAICA）での仕事」です。また、芸能人としては電撃ネットワークとエスパー伊東の公演があります。

当日は大学内外から多数の方が来られると思いますが、学生の皆さんには特に交通事故を起こさないように注意をお願いします。

総務課**イブニングタイム公開講座のお知らせ**

毎年恒例となりました「イブニングタイム公開講座」を今年度も開催いたします。今年度は「ライフステージ（ライフサイクル）におけるこころの健康」がテーマです。詳細は以下の通りです。

日 時：11 月 4 日（木）～ 12 月 16 日（木）

毎週木曜日 6 時間目（18：00～19：30）

会 場：D 棟 110 教室

受講料：一般...1 回 500 円 学生...無料

申し込み：開講日当日、D110 教室前にて受付をいたします。学生の受講希望者は学生証を持参の上受付を行って下さい。

講義スケジュール**総論：「ライフステージ（ライフサイクル）の視点の意義」**

第 1 回 11 月 4 日 <小田 晋先生>

家族、子育て、性、地域その他をめぐらる問題

各論：「各時期におけるこころの健康」

第 2 回 11 月 11 日 <江木明美先生>

「乳幼児期・学童期（児童期）のこころの健康」

第 3 回 11 月 18 日 <斎藤 舘先生>

「思春期・青年期のこころの健康（神経症等）」

第 4 回 11 月 25 日 <三浦四郎衛先生>

「思春期・青年期のこころの健康（人格発達障害、精神分裂病等）」

第 5 回 12 月 2 日 <中村 勝先生>

「成人期・中年期のこころの健康」

第 6 回 12 月 9 日 <相原和子先生>

「初老期・老年期のこころの健康」

第 7 回 12 月 16 日 <荻原喜茂先生>

「こころの健康・困ったときどうするか（県北地域の利用資源）」

図書館**新コンピュータシステムの導入が決定**

昨年度より検討されてきた図書館の新コンピュータシステムの導入が決定し、年内には稼働の見込みです。インターネット対応が可能になり、特に不便をお掛けしていた医学中央雑誌の文献検索は、過去 10 年分（従来 5 年）の検索が可能になり端末も 2 台追加されます。

図書館内の蔵書検索用端末も増設され、情報処理室、院生・教員用端末からも検索が可能になります。どうぞご期待下さい。（飯沼一浩）

部会・委員会報告

国際部

JICA/ケニア医療訓練カレッジ・プロジェクト

Mr. Paul Tuukuo (副学長) と Ms. Anne Bwika (看護学部長) が、9月27日に来学、Ms. Bwika は看護教育の運営管理の研修を10月8日に終了、Mr. Tuukuo は大学の運営管理について10月22日まで研修中。

国際医療協力研究への参加

国際医療福祉総合研究所の中嶋宏所長を顧問、国際部・長谷川を分担研究者として、厚生省の国際医療協力研究委託費による「開発途上国大都市の公衆衛生対策のための国際協力の実施方策に関する研究」がスタートし、9月中～下旬、長谷川がホーチミン市へ、放射線・情報科学科(国際部副部長)山崎教授がナイロビ市へ調査出張しました。

(長谷川豊)

教務委員会

総合講義の開講(保健学部新カリキュラムによる)

後期授業より保健学部新カリキュラムによる総合科目がいくつか開講します。なかでも総合講義はユニークな講義内容と講義形態をとります。この科目は学生が広く関心をもつことができるテーマを具体的に設定し、このテーマに対するさまざまな側面からの認識について、複数の専門家によってそれぞれの立場から講義を行うものです。ちなみに、自然科学、社会科学、人文科学領域のどれかの領域で単位取得が可能ですので、学生各自が領域を選択してください。ただし、中途での変更はできません。

平成11年度は講義のテーマを、「21世紀的那須圏域」とし、那須地方の歴史・社会・文化、那須地方の自然環境、那須地方の産業・社会・経済、那須地方の生活と文化、21世紀的那須地方、の内容で14回を計画しております。講師には、大田原市長、明治学院大学院長、宇都宮大学教授、地元企業、那須領域の各行政部署、歴史資料館、青年商工会議所、下野新聞社等からの学識有識者たちから成ります。そして大谷学長も本大学の立場で、参加していただくことになっております。

また、ユニークな講義形態として、この授業を公開とし、地域の住民とともに学生が学ぶという形をとります。したがって、学生は地域の住民と席を同じくするわけですから、必然的に、国際医療福祉大学の代表として、地域住民から見つめられることとなります。この授業では、学生・地域住民が積極的に質問や意見を述べ合う雰囲気は是非作りたいと、楽しみにして期待しております。(杉原素子)

国際交流委員会

‘99国際ボランティア・研修活動が4ヶ国で行われ、参加学生は大きな成果を挙げて全員無事帰国しました。(リーダー サブリーダー)

第3回 ベトナム

於: チョーライ病院(ホーチミン市)

8/4 ~ 8/24 参加14名

看護3年 石丸恭子 看護3年 藤澤祥江

看護3年 小原知絵子 看護2年 田子康之

言語3年 野村奈美 言語3年 佐野晴美

言語3年 横山妙子 経営2年 石井美香

経営2年 熊谷直美 経営2年 古島洋平

経営2年 牧田高志 経営2年 谷部 聡

福祉3年 柳原吏子 福祉2年 小原直人

引率教員: 加藤尚子(経営) 石井恵美(理学)

第2回 アメリカ

於: プロビデンス病院(ワシントンD.C.)

8/4 ~ 8/24 参加3名

言語3年 紺野千津恵 言語3年 金場理恵

言語3年 野口良子

引率教員: 城間将江(言語) 溝口昭子(語学)

第2回 中国

於: 中国リハビリテーション研究センター(北京市)

8/4 ~ 8/17 参加4名

看護2年 斎藤奈緒 言語3年 竹野谷綾子

放射4年 久保田裕美 放射4年 甲斐美津江

引率教員: 金場敏恵(放・情)

第1回 オーストラリア

於: クィーンエリザベス研修センター

8/4 ~ 8/24 参加7名 (バララット市)

看護3年 遠藤壽美枝 看護2年 矢作延子

言語3年 三田彩知永 言語3年 森 典子

言語3年 安田聡子 福祉2年 黒羽容子

大学院 田宮 愛

引率教員: 斎藤昭彦(理学)

出発に先立ち、7月31日に記者発表、結団式、壮行会が行われ、学長や教職員から激励を受け、毎日新聞(8月1日)、下野新聞(8月3日)に紹介記事が掲載されました。

なお、昨年の『活動報告書』が完成し、活動を受け入れていただいている諸機関に学生が持参しました。国内でも関係者、教職員に配布しました。

(田中美子)

4、5ページの「特集‘99国際ボランティア・研修活動報告」もあわせてご覧下さい。

(部会・委員会報告は8ページに続きます)

特集 国際ボランティア報告

各地を訪れた学生、引率の先生から活動報告と写真をお寄せ頂きました。国際ボランティア・研修活動の概要については、3ページの国際交流委員会報告をご覧ください。

ベトナム

ベトナムでの忘れられない3週間

私たち14名は、8/4～24の3週間、ベトナム・ホーチミン市のチョーライ病院で活動を行いました。今回で3回目を迎える活動も今年から活動の場に消化器科が加わり、脳外科、リハビリ室とあわせて3科を3グループに分かれて回りました。最初は、日本とはあまりに異なる環境に不安だらけだったのですが、習慣や食文化にも徐々に慣れ、ベトナムでの生活をおおいに楽しむことができました。最後に、私たちにこのような機会を与えてくださった諸先生方、チョーライ病院のスタッフの方々に心から感謝しています。

(看護3年 小原知絵子)



初めてのベトナムで

8月の3週間14人の学生と初めての地、ベトナムを訪れました。ベトナムは暑く、熱気あふれる国であり、人々もエネルギーで活動的な人が多いと感じました。ベトナムでのボランティア活動は私達が活動するというより、研修させていただいている状況で、病院内では、私達は英語と片言のベトナム語でコミュニケーションを図り、現地の人々に触れる事をしました。ボランティア活動という目的でのぞみ、実際には活動できず、ボランティアとは何なのかと悩み、考え、良い経験になった事と思います。

(理学 石井恵美)

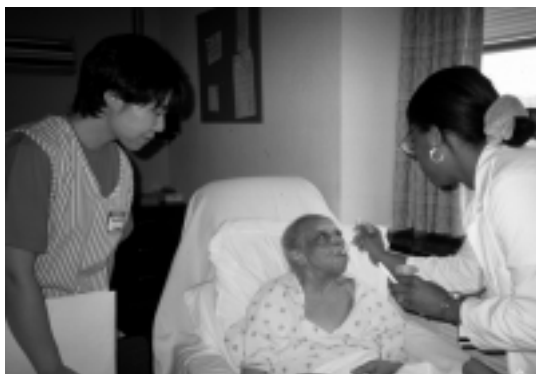
アメリカ

国際的な専門家を目指して

病院では言語療法の臨床や線による嚥下の検査、新生児のABRなどを見学、そして失語症のグループセラピーに参加しました。ナースিংホームではハッピーアワーを任せられ、約50人のお年寄りの前で浴衣を着て日本舞踊を披露したり、盆踊りや折り紙を教え、楽しい時間を過ごしました。更にASHAという言語聴覚士の国際組織の本部を見学しました。また、世界で唯一のろう者のため大学であるGallaudet大学やハーワード大学、そしてジョージワシントン大学などを訪れました。

私達の大学がいかに器材などに恵まれているか実感し、一方でアメリカの大学の規模や建物のすばらしさに圧倒されました。実際にさまざまなことを見聞でき、各人がこれからの大きな飛躍となる経験をしたと思います。いつの日か一人前のSLPとしてプロビデンス病院を訪れたいものです。

(言語3年 紺野千津江)



Providence Hospital

(アメリカ合衆国ワシントンD.C.)における研修

今夏のアメリカ合衆国研修の参加者は言語3年生の紺野千津江さん、金場理恵さん、野口良子さんの3名だけでした。研修はProvidence Hospitalという総合病院と、そこに隣接するCarol Mannerという老人ホームにおいて、SLP (Speech-Language Pathologist、日本でいうST)の方々の臨床を見学させていただきました。主に嚥下障害、発声発語障害、高次脳機能障害、新生児の聴覚スクリーニングでした。専門用語の予習・復習に励み、失語症患者のグループ訓練や老人ホームにおけるグループ活動の時間を担当する機会を与えられました。大学で学んだ知識を実践すべく、3名は真剣に活動

計画を立てて教材を作り本番に臨みました。ことばのハンディーを越えて誠意が伝わったのでしょうか。患者さんや病院のスタッフに感謝され、養子縁組の申し出(痴呆の患者さんでしたが...)がある程でした。その時の学生達は美しく輝いていました。

(言語 城間将江)

中国

「中国での思いがけない体験」

今回の研修で思いがけない体験を2つしました。1つは、中国でのケガの処置を見られたことです。どじな私は壊れた椅子に指をはさみ、釘で切り傷を負いました。簡単な消毒だけで済むかと思っていましたが、注射まで打たれ、おおごとになってしまいました。手当てに用いられた消毒液は、日本で用いられているものよりも濃度が高く、その臭いの為だと思うのですが数分間気分が悪くなりました。しかし、その消毒のおかげで傷はすぐよくなりました。

もう1つは、ずっと患者さんのそばで訓練を見学させて頂けたことです。STでは、4年生で臨床実習が始まるので、これほど間近で患者さんに接したのは今回が初めてでした。さらに、日本から短期でリハビリを受けに来ているお子さんがおり、そのお子さんに対してご指導下さったSTの方と一緒に絵カードを用いた訓練をさせて頂くこともできました。

どちらの体験も貴重な体験でした。これ以外にもエステやマッサージを体験したり、宮廷料理を食べたりなど2週間はとても充実した日々となりました。(言語3年 竹野谷綾子)



中国研修を引率して

中国康復研究中心での研修は、建国50年にあたり中国全土の医療改革のスローガンも随所に見られる北京市内の他の病院への見学、さらに博物館、京劇観劇など盛り沢山の内容を含み、学生の研修のみならず日中友好に大いに貢献し終了しました。研修は看護、言語、放射線など学生の専攻別に実施され、言葉の問題を越えて職員の研修と同様なレベルで指導がされました。研修中の食事はもちろん中国料理であり、さすが本場の味、毎日が楽しみでした。食後には、京劇少年の部で優勝したジャンディ君とジャズダンス部の久保田さんとの即興も見られました。そして、学生全員が女性ということもあり、美容エステの経験も。日本の医療も充分に知らない学生にとっては、全てが新鮮で興味のあるものであり、更に中国の文化、歴史にも触れる有意義で贅沢な研修であったことは言うまでもありません。

(放・情 金場敏憲)

オーストラリア

オーストラリア研修

私達はこの研修で、オーストラリアのヘルスケア制度や種々のケアマネジメント等の講義及び高齢者ケア施設の見学を始め、デイセンターでの実習を全員で、またグループに分かれて訪問看護や高齢者ケア施設での実習と、様々な経験をしました。実習先では入所者と共に歌い、体を動かし、同じものを食し、ゲームをしたりして交流を深めました。中には施設職員との結婚話が進められたり、行き先不明のミステリーバスツアーに参加したり、施設職員のストライキに遭遇した等のハプニングもありましたが、見聞きしたことについて考えさせられることも多く、それぞれが様々な思いを胸に出来た研修旅行でした。(言語3年 森 典子)



オーストラリア研修を引率して

バララッタはメルボルンの西部に位置し、かつてはゴールドラッシュで栄えた金鉱の町でありました。当然、すべての人が一攫千金を果たせるはずもなく、貧困や障害に悩む人々にとって、一般市民による援助が大きな支えでありました。このような活動の中心的存在が、今回の研修場所であるQueen Elizabeth Aged Care Solution (QEACS) でありました。

現在、QEACSの医療福祉政策は世界的にも注目され、とりわけ日本で導入される介護保険制度のモデルにもなっております。研修に参加した学生達にとっては、異国での研修は大きな試練でありましたが、将来、保健医療福祉分野で活躍する上でかけがいのない貴重な体験となりました。

(理学 斎藤昭彦)

特集 国際医療福祉総合研究所

総研探訪

9月の一、二、東京・青山に国際医療福祉総合研究所（以下、総研）を訪ねました。営団地下鉄青山一丁目駅の改札を出ると、そこはもう総研のある建物の地階です。

新青山ビルディング西館22階に位置する総研には、事務部門を囲むように、研究スタッフの個人ブースが並んでいます。研究には不可欠な個室に近い環境がある程度確保され、一方で、共同研究の便宜を図ったり研究補助スタッフの協力が得られやすいよう工夫されたスペース構成になっています。

総研には、中嶋宏所長、丸尾直美副所長のもと、事務部門である企画管理部と、事業開発部、総合研究部が置かれています。事業開発部は主として産学協同を進めながら研究所の知力を社会貢献という形で外に向けて発信していく事業を企画・実施しています。実際の研究を担う総研の頭脳である総合研究部は、自主的な研究に加え、主に厚生省や企業からの委託研究に取り組んでいます。

開設から1年を経て組織的に整備された総研では、総研のあり方や研究事業の方向性をめぐって議論がつきないとのこと。また、本学の教員との共同研究も始動しているそうです。今後を楽しみにしつつ、成果をどんどん本学にも発信して頂きたいものと思いました。

（田澤 薫）

総研自慢

第一は「若さ」です。現在は発展段階ですが、これから新しく作り上げていこうとする気概にあふれています。1年たつてようやく研究員もそろい、活動も軌道にのってきたところです。

第二は「人」です。多様な専門分野をもつ研究員が、幅広いテーマにチャレンジしています。

第三は「場所」です。交通の便がよく、研究者、臨床現場の専門職など、多様な人が集まれる拠点になっています。今後の研究所の成長にご期待下さい。

設立以来の研究テーマ

今後の介護支援サービスのあり方に関する研究（丸尾直美副所長主催）「ポスト介護保険」

今年度は、介護保険導入に伴う介護支援サービスの課題と今後の方向性を検討します。

リハビリテーションの効果と今後のあり方に関する研究（西村周三客員教授主催）

今年度は主に患者の意欲とリハビリテーションの効果との関係について検討するための調査研究を予定しています。

訪問看護と介護支援サービスのあり方に関する研究（岩下清子教育研修室長主催（財 訪問看護振興財団より助成）

介護保険導入をにらんだ訪問看護の今後の方向について検討するもので、今年度は、介護保険施行後に、訪問看護ステーションが総合的なサービスを提供するための要件について、調査・事例検討を行います。

福祉用具の供給・利用システムに関する研究

（日本健康福祉用具工業会からの委託調査（昨年度）（財）フランスベッドメディカルホームケア研究・助成財団より助成（今年度））

訪問看護ステーションと協力しながら介護保険制度下での福祉用具・供給利用システムのあり方について研究を行います。

E BMを支えるリサーチライブラリアンの養成に関する研究（厚生科学特別研究事業、主任研究員中嶋宏）

E BMが実践されるために必要なシステムティックレビューを自ら行い、それをサポートするリサーチライブラリアンなどの育成を目的とし、研究デザインのあり方から、データベース、構造化抄録などの情報の組織化についての論点を抽出し、リサーチライブラリアン養成のためのワークショップが開催されます。

製薬企業からの受託を受け、新薬や既に発売されている

医薬品、検査などについての経済評価を実施しています。

中嶋宏所長に伺う

総研奥の所長室に中嶋先生をおたずねしました。

国際医療福祉大学の一員となられてのご感想

「大学のチャレンジに参加していると考えている。実は国際医療福祉大学ができる以前の第1回設立委員会のときから大学に関わってきた。（WHO事務局長の公職にあられたため、規定により、大学設立後の運営には携われなかったとのこと。：筆者注）これまで重視されていたとは言い難い日本のコメディカルの役割に着目した国際医療福祉大学は大学自体がチャレンジだ。」

附置研究所として大学との連携について

「大学の教員とプロジェクトを組んだ研究に力を入れたい。」

国際医療福祉大学の学生へのメッセージ

「これからの医療福祉は対話型で、コミュニケーションがひとつの大きな問題となる。コミュニケーションがよくとれるようにしてほしい。それから、医療福祉は日本だけの問題ではない。大学名に「国際」と謳っているのもその趣旨だが、大学を卒業したあと将来、国際的に活躍されることを希望している。」

ご多忙のなか丁寧におたえくださり、開学以前から本学の基盤づくりに力を尽くしてこられた先生の本学への愛情が伝わってまいりました。世界的な要職を歴任された先生ですが、笑顔が若々しく、気さくでファッショナブルでした。ありがとうございました。



（田澤 薫）

シンポジウムとイベント

セミナー（平成11年12月1日）

「医療・福祉の統合について - 『エーデル改革』によってスウェーデンの福祉政策はどのように変わったか - 」開催
介護保険制度によって、医療・福祉の統合やサービス供給体制の整備など、従来とは異なる新たな枠組み・課題が
提示されつつある中、福祉先進国といわれるスウェーデンで行われた、『エーデル改革』（高齢者医療と福祉サービ
スを市町村のレベルで統合化し、また、施設介護と在宅介護を総合化した政策として注目された）の概要を検討し、我
が国の今後の施策のあり方を考え参考とするために、シンポジウムを開催しました。

基調講演にはM. トーシュンド（ストックホルム大学社会福祉学部教授）、訓覇法子氏（ストックホルム大学社会
福祉学部大学院研究員、日本福祉大学客員教授）をお招きしました。

EBM リサーチライブラリアン・ワークショップ（平成10年3月23～25日）

成果は、本年度中に中外医学社から出版予定です。

スタッフ紹介

職位 生年 出身校 専門分野 直前の勤め先 主要著書又は論文どちらか1点 本校における担当科目 趣味

中嶋 宏（ナカジマ ヒロシ）

所長 1928年

東京医科大学 国際保健、医療技術評価

WHO（世界保健機関）事務局長

「21世紀に向けた保健戦略とWHO」

所長のある一日

10:00 出勤

午前 季刊誌「国連」原稿執筆

研究員プロジェクトの報告

午後 日本獣医師会会長来訪

群馬大学50周年記念講演

打ち合わせ

18:30 外務省主催レセプション



▲国際医療福祉総合研究所のスタッフ一同

映画鑑賞、読書

島田 千穂（シマダ チホ）

研究員 1965年

東京大学大学院医学系研究科発達医科学教室

保健福祉学

身体機能維持に対する社会的関わりの特性に関する研究
読書

飯田 朱美（イイダ アケミ）

研究員 1960年

慶應義塾大学大学院政策メディア研究科

音声インターフェイス 関東学院大学非常勤講師

「感情表現が可能な合成音声の作成と評価」（共著）

情報処理学会論文誌「第40巻第2号（1999.2）」

家事、育児（？）小学生の長男と遊ぶこと、パソコン、

インターネット、本当はテニスがしたい！

岡村 世里奈（オカムラ セリナ）

リサーチレジデント 1970年

上智大学院 社会保障法 上智大学院

判例評釈「国民健康保険被保険者証不交付処分取消

請求事件」（季刊社会保障No.36,123項以下、1997年）

旅行

井上 直子（イノウエ ナオコ）

研究補助 1973年

ケースウェスタンリザーブ大学大学院

高齢者福祉 ドライブ、映画鑑賞

工藤 裕美（ウドウ ヒロミ）

研究補助 1965年

日本女子大学文学部博士課程前期社会福祉学専攻

『マザーテレサのインドにおける福祉活動』

日本外国語専門学校国際ボランティア科

『マザーテレサのボランティア活動に関する一考

察』著書『中国決死旅行』中国語にて出版、香港・台

湾で発売

パンダネズミの飼育、週末友人とパーティーすること

丸尾 直美（マルオ ナオミ）

副所長 1932年

慶應義塾大学大学院経済学研究科、経済学博士

経済福祉政策 慶應大学教授

「福祉ミックス社会への挑戦」（中央経済社、1998）

古美術鑑賞

豊田 建（トヨダ ケン）

教授、事業開発部部長 1948年

中央大学 医療情報学

日本アイ・ビー・エム株式会社

「電子カルテが医療を変える」（共著）

医療情報ネットワーク論

読書、クラシック音楽、料理

岩下 清子（イワシタ キヨコ）

教育・研修室長 1941年

東京教育大学大学院 社会学

（社）日本看護協会・調査情報管理部

「診療報酬—その仕組みと看護の評価」1999年日本看

護協会出版 旅行

坂巻 弘之（サカマキ ヒロユキ）

研究員 1956年

北海道大学薬学部、慶應義塾大学大学院経営管理研究科

薬剤経済学、疾病管理、EBM

慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室

EBMにおけるリサーチライブラリアンの役割と養成

医学図書（1999）46:201-208など テニス、飲酒

岩崎 理香（イワサキ リカ）

研究員 1962年

中央大学大学院経済学研究科 理論経済学

病院経営動向指数（Hospital Diffusion Index）作成

に関する研究 数理系パズル、幾何ユニット折り紙

鈴木 理恵（スズキ リエ）

研究員 1966年

慶應義塾大学 福祉社会学 ㈱富士総合研究所

「アメリカのホームレス対応策に関する研究」（平成

9年）

部会・委員会報告(3ページより続き)

紀要委員会

平成11年度第4回紀要委員会を7月27日(火)に開催し、終了後に納涼の宴を持ちました。前回にご報告のとおり委員構成が大幅に変更になりましたので、大変有意義なそして楽しい交流のひとつとなりました。紀要の考え方や将来像など大きな問題を議論いたしました。第5回の委員会は定例より2週間遅れて8月31日(火)に開催いたしました。

紀要第4巻の編集作業に入っておりますが、まだ原稿の未着があって作業は遅れ気味です。しかし、諸情報から明るい見通しを持っております。そろそろ紀要第5巻の計画が話題に上るようになりました。

(野原功全)

ボランティア委員会

ボランティアアンケート報告

本年4月に本学2年生全員を対象として実施したアンケート結果の概要は、以下のとおりです。

* 調査対象、本学2年生821名全員。回収数671名(82%)、有効数663名。* 調査時期...1999.4月

1. 入学前のボランティア経験 (%)

	看護	理学	作業	言語	放射	経営	福祉	全体
月に一日以上参加	8.3	5.7	4.3	4.0	0.9	5.6	6.8	5.4
月に一回未満、行事参加	35.8	16.0	47.8	27.8	25.4	28.4	38.4	31.5
参加経験なし	55.7	78.1	47.8	67.0	73.5	64.7	51.2	62.8

2. 入学後のボランティア参加経験 (%)

	看護	理学	作業	言語	放射	経営	福祉	全体
参加する	32.2	6.8	40.5	8.8	4.9	17.0	23.0	19.1
参加していない	67.8	93.2	59.5	91.2	95.1	83.0	77.0	80.9

3. ボランティア活動への参加希望

(参加経験なしの人への質問)(%)

	看護	理学	作業	言語	放射	経営	福祉	全体
今度参加してみたい	53.6	69.1	73.1	77.7	43.8	54.7	74.4	62.6
興味はあるが参加しない	30.4	25.9	21.9	15.2	35.7	27.3	14.4	25.0
興味がない	8.5	2.4	1.4	1.3	10.2	1.3	1.1	7.8
わからない	7.3	2.1	1.4	5.5	10.2	10.9	5.5	6.3

大学に入学後になんらかのボランティア活動に参加体験を持つ者は、5人に1人と割合が高く、このうち月に一回以上参加という本格的な参加者は、20人に1人の割合。

未参加者でも今後参加してみたいという学生が10人に6人と数多くいることが判明しました。今後どのように対応していくかが課題です。(鈴木五郎)

就職委員会

公務員試験対策講座開催

本学としては、はじめての公務員試験対策講座を8月2日～12日に開催、85名の学生が受講しました。受講態度は、たいへんまじめと好評でしたが、最後の模擬試験では全問に着手できるところまではとどかず、まだ少し実力不足であることがあきらかになりました。どこの大学でも数年継続するなかで実力があがるとのことで、今後も継続実施する必要があります。

委員会としては、来年は年度計画として4月下旬から6月末にかけて毎週土曜日、合計10回開催を計画しています。

9/13日の就職委員会で、11年度の就職対策について情報交換を行いました。(鈴木五郎)

情報化委員会報告

国際医療福祉大学とその関連施設を結ぶWANのインフラ整備を行っています。その内容は「SL教室パソコンの代替及び新規採用教職員へのパソコン購入 関連施設のLAN及びパソコンの整備 宇都宮大学への専用回線の容量アップ(128Kbps→1Mbps) メールダイヤルアップ利用のためのISDN(INS1500)回線契約 サーバの代替」などです。これに伴い、現在メールソフトのLotus notesを利用停止とし、Microsoft社のOutlook Expressを標準ソフトとします。また、外部からのメール利用はプロバイダー経由、ダイヤルアップ機能いづれも利用可能となります。現在、情報メディア部で機器の導入・調整、LANの整備、回線契約などを行っており、全システムの稼働は平成11年10月初旬を予定しています。(樺澤一之)



学科・センターだより

大学院

平成 11 年度「第 1 回大学院研究報告会」開催

去る 7 月 21 日（10 時～15 時）大谷学長の開会の辞を皮切りに、大学院開学後最初の研究報告会が開催されました。開催の趣旨は、“小さくても originality の光る” 修士論文の作成をめざす 5 分野 42 名の院生全員が、正味 3 ヶ月余りにわたる研鑽の進捗状況を発表し討議する場をもつことによって、お互いの分野の理解を深め合い、知的刺激をかきたて合おうというものでした。各院生の発表内容は研究テーマ、方法論、進捗状況ともに多様そのものであり、多様性の中から生まれる新鮮なエネルギーを強く印象づけるものでした。分野間の連携・共同の芽生えを示唆するテーマもいくつか見られました。参加された教員からのコメントも極めて有益でした。最後に発表内容全体に対する初山院長のご講評をいただき、実り多い報告会を終わりました。

（笹沼澄子）

看護学科

臨床看護実習真っ最中！

3 年生は 9 月 16、17 の両日にわたるオリエンテーションを終え、20 日から臨床看護実習にはいりました。

自分が中心となっておこなう実習は今回がはじめてでまだ不安や緊張でいっぱいだと思います。調べものや記録に追われる毎日かもしれません。でも、そうした状況に置かれるからこそ忘れられない出会いや重要なヒントが得られるのです。手のとどく範囲に夢が近づいてきているのを感じていますか。実習に臨むすべての学生諸君！

怖がらず、遠慮せず、高を括らず、礼儀正しく、素直に、そして自分を信頼していこう。（中村 勝）

理学療法学科

長くも短くも感じられる夏休みに終わりを告げ、後期授業が始まります。それぞれ沢山の思い出を作り、また臨床実習や、9 月 19 日に開催された関東甲信越ブロック理学療法士会でのボランティア等では、多くの成果を得た事ではないでしょうか。

さて、後期は 3 年生恒例？の 1000 問試験をはじめとし、各学年とも慌ただしく、4 年生においては研究、就職活動、国家試験対策等と、最後の追い込みとなります。

時間を有効に活用し、是非とも有意義に過ごして貰いたいものです。（中口和彦）

作業療法学科

臨床実習で何を得ましたか？

すっかり秋めいてきました。1・3・4 年生はそれぞれに臨床実習を経験したかと思います。座学で学んだことと臨床の現場で感じたこととを関連づけられたでしょうか。臨床実習は期間が限られますが、期間が終われば全て終わりというものではありません。現場で見たこと感じたこと考えたことを後期の授業を交えてさらに深めていって下さい。2 年生は、評価実習までにしっかり学び、実習に備えて下さい。

（久保田清子）

言語聴覚障害学科

第一回卒後研修会開催

前回の IUHW でお知らせしましたが、7 月 31 日、8 月 1 日にハートピアきつれ川において、第 1 回卒後研修会が開催され、全国から 51 名の卒業生が集いました。研修会では活発な質疑応答がなされ、その様子から、日々悩みつつも、全力で臨床に取り組む卒業生の姿がうかがえました。また、夜遅くまで、助言を求め恩師に相談をしたり、仲間と語らいあったりと、楽しく、充実した時間を過ごしたようです。

在校生のみなさんも、卒業生に負けぬよう、目標を持ってがんばって下さい。（武智司尾子）

放射線・情報科学科

ケニア医療訓練カレッジ放射線学部長の David Arthur Bwonya 氏が、3 月 8 日から 4 月 28 日までの研修の続きとして 8 月 3 日に本学科に再来学し、8 月 31 日までの研修を終えました。この研修は山崎統四郎先生の周到な準備と飯沼一浩先生の綿密な研修計画と指導および院生の手伝いもあり順調に終了しました。長谷川国際部長には種々のご配慮に感謝します。

今年も 3 学年の臨地実習が始まりました。3 回目となりますが、前年同様に 2 班に分かれ、前班が 8 月 30 日から 10 月 29 日までの予定ですでに出発しました。後班は 11 月 1 日から 12 月 31 日までの予定です。

（野原功全）

医療経営管理学科

3 年生病院実習いよいよスタート

医療経営管理学科は、病院実習を最重要と考えたカリキュラムを実施しています。1 年次の見学実習、2 年次の老人保健施設、厚生省、栃木県での実習に加えていよいよ 3 年次の 4 週間の病院実習がスタートしました。日本でも初めての学科の実習だけに、1 年かけて準備し、日本全国 49 の代表的な病院が引き受けてくださり、深夜の勤務から中央材料室の清掃、剖検の見学もあるなど、多様性のある実習で、良き病院づくりの秘密を学習しています。教員も 2 回訪問するなどユニークな実習になりそうです。

（紀伊國献三）

医療福祉学科

医療福祉学科カリキュラムの中核ともいえる医療福祉実習 がいよいよスタートしました。2年次の演習を踏まえ4月から2科目にわたる実習事前教育をうけた3年生は、9月を中心とする4週間から5週間を施設や機関でみっちり実習してきます。途中、担当教員が訪問するほかは大学からはなれ、一人から数人の実習生だけで現場にすっぽり包み込まれたひと月余りを送ります。現場職員や利用者に教えるを乞える関係を築くところからはじまる実習を経て、援助技術のみならず人間的にも成長した(はずの)3年生の帰校が楽しみです。(田澤 薫)

語学教育センター**“Making a Difference”**

英語科では全1年生にまとめた英文のReadingを夏期休暇中の課題として内容理解と重要単語の学習をしてもらっています。幸運なことに紀伊國屋三教授のおかげで、今年5月に発表されたばかりのWHOの1999年の年報が手に入り、その1部を許可を得て使わせて頂いています。将来役に立ちそうな、医療、保健関連の単語が一杯詰まっています。その副題が*Making a Difference* ですが、これが日本語にするのが難しい表現ですね。

“違いをもたらす”という意味ですが、ここでは今までとは違うものを創り出す“さらなる前進”といえるでしょうか。内容を読みますと、WHOのこれまでの活動の成果を評価しつつも、新しい世紀の新しいチャレンジを果たすために諸問題に取り組むストラテジーを具体的に述べています。では1年生の皆さん、“Let's make a difference, by reading *Making a Difference*.” (宮尾洋子)

基礎医学研究センター

8月初旬に大学の英文用パンフレットが刊行されました。関係各位の苦勞が忍ばれます。基礎医学の適切な英語にはかなり混乱があるようです。臨床医学(Clinical Medicine)に対応してBasic Medicineでしょうか? 全国医学協議会(英国, GMC)では、Preclinical Divisionsとも表現しますし、本邦の医系大学ではDept. of Preclinical Medicineを正式英文名としているところもあります。いずれにしろ医療界で通用する terminology を正確に把握し、医療人として知らなければならない医学的知識を身につける分野です。(飯高和成)

健康管理センター**国際医療福祉大学クリニック****- クリニックの使命 - その2****学生実習について**

大学クリニックの組織は健康管理センター、言語聴覚センター、一般クリニックから成っています。目的の一つとして、学生実習に協力することがあります。現在まで学生実習を行ってきたのは主として言語聴覚障害学科でした。本年後期から放射線・情報科学科の画像読影実習が始まります。学生の実習に適切な場を提供することもこの施設の大切な目的の一つと考えています。ただ患者さんの診療を行っている場での実習であることを十分にわきまえた実習態度をとっていただくようにお願いします。

(都築正和)

言語聴覚センター**言語障害あれこれ(1)**

言語障害をもつ方達とはどんな方なのか、何回かに分けてご紹介しましょう。来所数が最も多いのは言葉の遅れを主訴とするお子さんです。言葉の遅れの原因は知的障害や自閉症によることが多いのですが、言葉のみが遅れる場合があります。聴いて理解することと話すことが共に遅れている子供と、話すことのみが遅れている子供があり、聞き取りやすい話しかけを心がけ、注意して聞き取る練習や、音節の少ない単語から指導などをします。個々の症状は様々で一人一人にあわせた指導計画をたてます。相手は幼児ですので、楽しくできる工夫も大事です。

(斉藤佐和子)

情報教育センター

学生のインターネット利用がいよいよ実現します。この度、学内と国際医療福祉大学関連施設を結ぶWANの整備を行うこととなり、その一環として学生がインターネット利用するためのインフラの整備とインターネット教育を計画しています。インターネット教育は情報教育センター教員が、1年次に実施している情報処理(情報処理演習)の中で、情報処理演習室のパソコン(128台)を用いて行います。2~4年生へのインターネット教育は、現在情報教育センターで検討していますが、希望者に対して授業時間外に実施することを考えています。また、SL教室のパソコンを新しいものに代替し、学生のインターネット利用に開放します。利用に当たっては当然ルールが必要ですので、これも現在情報教育センターで検討しています。利用開始は後期授業開始日を考えています。

(樺澤一之)

教員紹介

毎号、各学科・センターから一名ずつご紹介頂きます。

所属・職位 生年 出身校 専門分野 直前の勤め先 主要著書又は論文どちらか1点
 本校における担当科目 趣味

西原 由美子(ニシハラ ユミコ)



作業療法学科・助手
 玉川大学文学部教育学科
 身体障害・老人作業療法
 柳川リハビリテーション学院
 実習等 秘湯めぐり

武智 司尾子(タケチ シオコ)



言語聴覚障害学科・助手 1973年
 愛媛大学大学院障害児教育専攻
 聴覚障害
 愛媛県身体障害者福祉センター
 読書

山崎 統四郎(ヤマサキ トウシロウ)



放射線・情報科学科・教授 1935年
 群馬大学医学部 核医学
 国際原子力機関(IAEA)
 核医学概論(編著)東京大学出版会
 核医学検査技術学
 旅、ガーデニング

磯 伸彦(イソ ノブヒコ)



医療経営管理学科・助手 1969年
 日本大学大学院経済学研究科
 経営学 経営行動研究所
 「企業合併と組織」現代の経営行動』
 所収、同友館、1999年
 簿記論、経営組織論 読書、音楽鑑賞

林 玉子(ハヤシ タマコ)



医療福祉学科・教授 1934年
 東京大学工学部
 老年環境学 支援工学(人間工学、建築工学、都市工学アプローチより、道具レベル、建物、都市の各レベルを含めて工学的側面より支援する)

東京都老人総合研究所生活環境部門研究部長
 プラス思考の生き生き向老学
 高齢者障害者生活環境論、
 音楽、水泳、旅行、馬のコレクション、心や体が衰えても平等に人間らしく暮らせるユニバーサル環境の実現について考えること

江木 明美(エギ アケミ)



総合教育センター・教授 1938年
 お茶の水女子大学大学院修士課程
 発達臨床心理学、障害児心理学
 心身障害児総合医療療育センター
 乳幼児期の心理治療(乳幼児期の臨

床心理学、1994年、駿河台出版)
 臨床心理学、臨床心理学概論、コミュニケーション論
 高原散策、コーラス、俳句

柳原 泰(ヤナギハラ ヤスシ)



臨床医学研究センター・教授
 1946年
 順天堂大学医学部
 整形外科、リウマチ科
 順天堂伊豆長岡病院整形外科

ヒトの手指関節の基礎的研究
 整形外科科学全般 ゴルフ、オペラ鑑賞

IUHW クイズ当選者発表

クイズにたくさんの応募をいただきありがとうございます。正解者は32名でした。厳正な抽選により北村直也さん(経営3年)がIUHWクイズ第15弾の当選者に決定しました。当選者は学生証を持参の上、事務局まで来てください。正解は以下の通りです。

解答

1 穏
 2 精
 3 例

問題

1. 安
 ↓
 静 → □ → 健
 ↓
 当

2. 酒
 ↓
 受 → □ → 進
 ↓
 巧

3. 事
 ↓
 実 → □ → 文
 ↓
 外

リレーエッセイ

トチノキ(栃ノ木)

語学教育センター 福原和子

栃木のトチノキってどんな姿の木? 気になる人は那須塩原駅へ行こう。西口から高林の交差点まで街路樹が続く。駅の方から先ずは櫟、次の約50mが栃だ。特徴は鋸歯のある小葉が5~7枚集まって作る、手のひらのような葉だ。面倒なら、大学の正門または裏門に入ってすぐ、道の両側の木を見ればいい。但し、これは栃ではなくマロニエだと思ふ。葉が小ぶりで鋸歯は鋭く、葉の裏の葉脈に錆び色の密毛がない。実を見れば確定するがまだ若木で花も実もない。マロニエの実には鋭いトゲがある。近々植えられる第一回卒業生の記念樹は、マロニエか栃か、鑑定してみよう。

マロニエは鑑賞用だ。パリの街角で街路樹としてポーッと立っていればよい。一方、日本の栃は山育ちで働き者だ。時には山の太郎(一番目立って大きい木)になる。切られて、汁椀など漆器の木地になる。机にもなる。果実は飢饉の時、栃餅・粥となって人助けもしたが、渋みが強く、灰で煮て何日も水にさらしてから使われた。

ネーミング ライフスタイル
名前も生き方もマロニエ
風の好まれる時代だが、あくは強いが、人の役に立ち、時にその分野の太郎になる、栃のような人もこの大学で育つといい。



▲トチノキ(栃ノ木)

次回執筆者: 福田恵美子先生(作業療法学科)

学生活動あれこれ

大学軟式野球国際大会二位報告

7/30~8/2、地元宇都宮市で大学軟式野球国際大会が開催されました。参加チームは、メキシコ、台湾、全日本選抜、栃木県選抜の3カ国4チームでした。国際医療福祉大学からは、栃木県選抜チームに臼杵寛16(理学3年)、石田泰樹6(理学2年)、筒井稔久9(理学2年)、上杉睦13(理学1年)、大友瑞木4(福祉2年)、渡辺洋平3(経営2年)以上6名が参加しました。結果は、台湾0-4県選抜、メキシコ3-4県選抜、全日本1-0県選抜の2勝1敗でした。一番印象深い試合はメキシコ戦でした。詳しくは野球部員まで。

P.S.現野球部主将筒井より「野球は言葉を超えるね」



▲友情の証にメキシコチームとユニフォームを交換して

編集後記

後期授業が始まり、静まり返っていたキャンパスにも活気が戻ってまいりました。

さて本号では2つの特集を抱え、いつもよりボリュームアップした内容となっております。

特集の1つである国際ボランティア活動では、参加された方にとって、大変刺激を受けるものであり、大いに視野を広げるものであった事でしょう。

IUHWも読者の方に良い刺激を提供していけるよう、工夫していきたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。(中口和彦)

IUHW クイズ - 第16弾 -

賞品はなんと旅行ギフト券(8000円分)!

解答を記入して事務局窓口外側のメールボックスへ投入するだけ。正解者多数の場合は抽選で1名の方に旅行ギフト券をプレゼント。応募資格は本学の学生で、1人1通、〆切は11月12日です。

総研クイズ

総研特集はいかがでしたか? 記事をよく読み直して答えてください。

キリトル

学科	学年
名前	
解答	1
	2
	3

問1 中嶋宏所長が事務局長をなさっていた国際機関は?

UNICEF IUHW

WHO WHAT

問2 総研の窓から見えるのは?

迎賓館 青山墓地

東京タワー 那須連山

問3 国際医療福祉大学を略するとIUHW。それでは、総研の英語名の頭文字をとると?

IUSK SOKEN

IRIHW UFO